

令和6（2024）年度 病害虫発生予察注意報 第2号

令和6（2024）年5月16日
栃木県農業総合研究センター

作物名：小麦、六条大麦、二条大麦

病害虫名：赤かび病

1 発生予想 発生量 多い

2 発生地域 県内全域

3 注意報発表の根拠

- 5月上旬の麦類赤かび病発生ほ場率は、近年では最も高い46.5%（平年値4.5%）であった（図）。発生穂率は2.6%（平年値0.0%）であった。
- 麦種別の発生ほ場率は、小麦（72.7%）、六条大麦（50.0%）、二条大麦（30.0%）の順に多かった。
- 4月下旬から周期的に降雨があり、感染・発病に適した気象条件であった。
- 気象庁の1か月予報（5月9日発表）は気温が高く降水量が多いとされており、今後さらに発生の増加が懸念される。

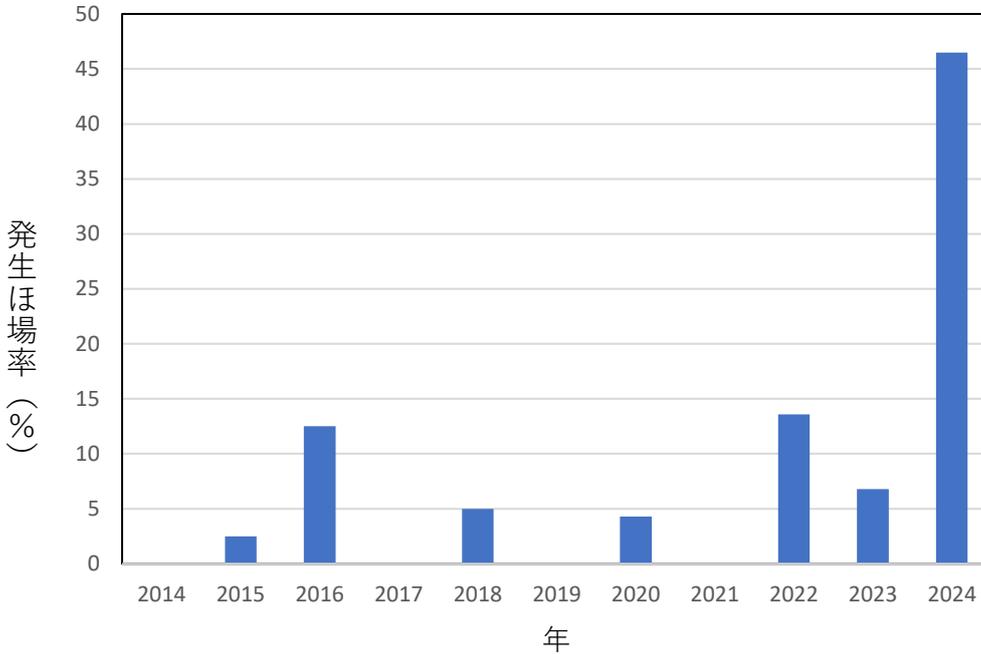


図 麦類赤かび病発生ほ場率（5月上旬）

4 防除対策

赤かび病の病原菌は、人や家畜に有害なかび毒（デオキシニバレノール（DON）、ニバレノール（NIV）等）を産生することから、赤かび粒の混入した麦は販売できないため、早急に防除を行う必要がある。

- (1) 薬剤の収穫前日数及び使用回数に留意して散布する。収穫期が迫っている二条大麦及び六条大麦を防除するときは特に注意する。
- (2) 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (3) 散布直後の降雨は防除効果が低下するため、降雨予想に留意し散布する。
- (4) 収穫の遅れは、かび毒の産生を助長する原因となるため、適期収穫を行う。
- (5) 収穫時は赤かび病被害粒の混入防止に努め、立毛中に発生が確認された麦は刈り分けする。

表 小麦または麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤（令和6（2024）年5月10日現在）

農薬名	作物名	希釈 倍数	使用 方法	使用時期／ 本剤の使用回数	薬剤 系統名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	小麦	2000倍	散布	収穫7日前まで ／2回以内	DMI剤	3
ワークアップフロアブル	麦類	2000～ 3000倍	散布	収穫7日前まで ／3回以内		
チルト乳剤25	小麦	1000～ 2000倍	散布	収穫3日前まで ／3回以内		
ミラビスフロアブル	小麦	1500～ 2000倍	散布	収穫7日前まで ／2回以内	SDHI剤	7

※詳細は、「栃木県農作物等病虫害雑草防除指針」を参照。

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/tochigi>



写真1 小麦の発病状況



写真2 小麦の発病・菌糸と分生子塊

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。
病虫害情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センター
ホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます